

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ローリエ		
○保護者評価実施期間	7年3月1日 ～ 7年3月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	7年2月7日 ～ 7年2月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容が、多様である。室内活動のほか、屋外での体を動かす活動、文化芸術に触れたり体験できる活動を提供できること。	年齢的にも、中高生が殆どであることから、体を動かして活動したい児童が多い為、室内活動に固定せず、施設外での運動やスポーツ活動にも積極的に取り組んでいる。社会に出ていくためのコミュニケーション力を高める為に、地域の行事やお仕事体験活動にも参加している。	事業所の室内空間は快適であり、障害特性による、パーソナルスペースの確保についても対応可能である。調理器具も一通りそろっており、自分たちで調理体験を行う事もできる。
2	地域住民や自治会、商栄会との交流が可能であること。	地域で管理する公園の清掃活動に参加させて頂いている。また、大宮神社秋季祭典へのお神輿参加や、商栄会との連携事業として、ハロウィンパレードの企画など実施し、地域との交流を深めている。事業所職員のための支援ではなく、地域住民の方々との関りの中で成長できる環境が整っている。	地域の環境美化活動として、歩道等のゴミ拾い活動や、花壇やプランターなどで地域の歩道前などの環境整備にも取り組みを発展させていきたい。
3	成人期を前に、様々な社会体験が実践できること。	徒歩による街歩き、公共交通（JRやバス）を利用した移動手段の体験を通じて、一般的な交通ルールや公共交通の利用方法などを事業所活動として体験できる。簡単な買い物体験（コンビニ・スーパーなど）も土曜・祝日中心に可能。簡単はアルバイト体験やお仕事体験活動にも参加している。	年間の実施回数をもう少し増やすことで、実社会で生活していくために必要なスキルが向上する。今後は、お仕事体験や職場体験活動を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育への課題	集団的療育活動は充実しているが、個別療育に重点を置くべきケースに関して、職員1名を専門に配置することが難しく、どうしても、集団活動の中での個別支援にとどまってしまう傾向にある。	・職員の専門性を高める為の更なる専門研修への参加。 ・個別支援が可能となる人員配置。
2	中高生の療育活動として、パソコン操作などの基本的スキルを学べるような設備が無く、より社会に出ていくための実践的な支援プログラムが提供しにくい。	専門的知識と技術のある支援員がいないこと。また、PC機器等の購入など、費用や維持費に高額な予算が必要となる。	補助金などを活用して、機器の設置を検討したい。指導人材の確保も前向きに検討していく。
3			